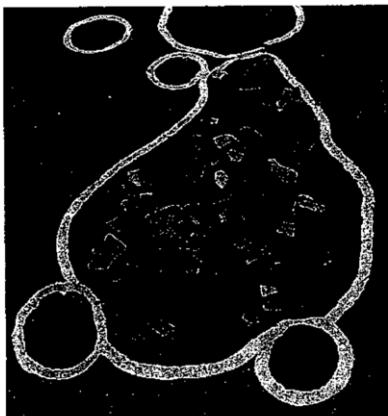


埋蔵文化財 探訪シリーズ

埋蔵文化財
探訪シリーズ"REKIMIN"。3回
レキミン > 9 <

> 9 <



変電所敷地内で発見された弥生時代
前期の柱穴や土壙

中垣內遺跡

(その五)

昭和六十年以降、現在に至るまで、幸運にも、関西電力東大阪変電所敷地内で発掘調査をする機会に恵まれ、これまでに、三ヵ所の調査を実施し現在も一ヵ所を調査中です。敷地内の北東にあたる調査済みの二所の状況は、土の量よりカ所で、弥生時代前期の遺構が見つかっています。

調査の結果、弥生時代前期の溝、柱穴、土壙などが見つかり、弥生土器のほかにも、石器、木製の鍬、鋤などが出土しました。昭和三十四年の調査で発見された、集落の範囲がさらに広がることもわかりました。

もむしろ、土器の量の方が多いといった感じでした。調査の結果、弥生時代前期の溝、柱穴、土壙などが見つかり、弥生土器のほかにも、石器、木製の鍬、鋤などが出土しました。昭和三十四年の調査で発見された、集落の続きの部分を調査したことになりますが、集落の範囲がさらに広がることもわかりました。

ここ数年、中垣内遺跡では、貴重な発掘や発見が相次いであります。それは、まだ、わからぬことがあります。まだ、わからぬことがたくさんあります。それは、大切な食糧である米を作つた水田の跡が見つかっていないことや、集落で人々が生活していたはずであるのに、その墓が見つかっていないことなどです。

今後、調査の機会が増えれば、きっと見つかることでしょう。

埋蔵文化財 探訪シリーズ

里蔵文化財
探訪シリーズ
REKIMIN
レキミン

中垣内や寺川などから、龍間方面の山々に目を向けると、阪奈道路が走り山の中腹に昇竜橋という橋がかかるつて、その背後に小高い山があるのが目に見えます。標高は、一番高い所で二百十二メートルで、眼下に

大阪平野はもちろんのこと遠くは六甲山や北摂の山並みを一望することができます。まさに国見という名にふさわしい場所です。ここで、弥生時代中期と後期の土器片が採集されています。

低湿地に立地が多いので、中期から後期と、急に山立地するよう、このよう、近畿から瀬戸内海に見られます。

ふもとから見た国見高地性遺跡

一般に弥生時代の遺跡（集落）は、稻作に適した低湿地に立地していることが多いのですが、弥生時代の中期から後期ごろになると、急に山の上にも遺跡が立地するようになります。このような、高地性遺跡は近畿から瀬戸内海沿岸にまで見られます。

中國の書物『魏志倭人伝』や『後漢書』には当時、倭（日本）の国々の間で、戦争があったことが記されており、見張りをしたり、のろしの煙をあげたりするのに適した場所であるために高地性遺跡が出現したと考えられています。

國見高地性遺跡も、このような軍事的機能を備えた遺跡であったのでしょうか。

國見高地性遺跡

遺跡は、高地性遺跡であることは高地性集落などと呼ばれています。